



生き方リセット

心がわくわくする大型連休（ゴールデンウィーク）ですが、例年とは様子が違います。コロナ禍の中「日常の再生」へ向けて、今、私たちは英知を総動員する必要があると思います。

人々の生活をおびやかしている新型コロナウイルス感染症との戦いをどう受け止め、本市の基幹産業である観光や農業、そして地域経済をどうリセットし、再生するのか考えなくてはなりません。

社会全体の「成熟化」「高齢化」「少子化」に伴い、日本人のパワー（エネルギー）、元気度、がむしろさまざまな点では、貧しくとも懸命に生きた昭和時代の成長期とは様相が違います。

それだけに、コロナ終息後の地域再生は「新型コロナウイルス感染症流行前の生活を取り戻すという従来の延長線上的な発想ではなく、新たな社会基盤の再生を視野に科学的、合理的、効率的に模索するもの」でなければなりません。

さて「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」ということわざがあります。知恵のある者は水のように自在に動き、方に従い、徳の高い人は山のように動じないという意味です。飲食店に、ドキッとする「つもり違い十か条」という短いが意味の深い言葉が掲げられていました。

「高いつもりで低い教養」「低いつもりで高い気位」「深いつもりで浅い知識」と、宴席で「浅い知識」をひけらかしたのではと不安になりました。品性についても「浅いつもりで深い欲望」「厚いつもりで薄い人情」「薄いつもりで厚い面皮」と手厳しいものでした。

心構えも「強いつもりで弱い根性」「弱いつもりで強い自我」とバツサリ。最後は飲み過ぎへの教訓でしょうか「多いつもりで少ない分別」「少ないつもりで多い無駄」との戒めが続きます。

京都には名のある庭が数多ありますが、ある詩人が語っています。「庭の良し悪しは、厠の小窓からの

ぞき見すると、よお分かります。庭が油断してまずさかい」と。

たしかに、どの庭も、人目を浴びる方向には体裁をつけて立派ですが、裏手からは素の顔が見えます。油断していると庭の表に見えない実相が表れます。薄っぺらな造りか本物の庭か、詩人は庭へのまなざしを人間観察に重ね合わせています。

もうすぐ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。コロナ迷走の果てが失望では、日本人の資質が問われることになりそうです。

誰しも、自分のことは自分が一番分かっていると思いがちですが、勘違いは多いようです。心眼を磨き実相（真実）を見極めたいと思います。



指宿市長
とよとめえつお
豊留悦男